

## 平成27年度静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況等について

静岡市ものづくり産業振興基本計画（以下「基本計画」という。）の実施状況については、静岡市ものづくり産業振興条例（以下「条例」という。）第8条第7項の規定に基づき、次に掲げる事項により報告いたします。

### 1 経 緯

基本計画については、平成23年3月、本市のものづくり産業の振興に向けた議員提案をもとに制定された条例を根拠とし、同条第18条に規定する静岡市ものづくり産業振興審議会（以下「審議会」という。）及び関係機関との連携を図りながら、基本計画の策定に向けて取り組んできました。具体的には、平成23年9月に審議会へ基本計画策定案の検討を諮問し、その後、パブリックコメントなどを経て、平成24年7月に「多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡」を計画目標とする基本計画を市長の定例記者会見において、公表・施行し、計画目標の達成に向けて取り組んでまいりました。その後の取り組みとしては、平成27年度以降も継続的にものづくり産業の振興を推進するために、第3次総合計画及び第2次産業振興プランとの整合性を図りながら、第2次基本計画を策定したところであります。

### 2 基本計画の概要

基本計画については、条例に掲げる趣旨の具現化に向けたプロセスであることから、計画目標を支える5つの方針に基づいて、全21の事業を設けるとともに、第2次基本計画より新たに8つの項目を重点項目として設定し、体系化を図ったものであります。

根 拠 法 令	静岡市ものづくり産業振興条例第8条第1項（基本計画の策定等）
計 画 期 間	平成27～30年度（4か年度）
策 定 目 的	本市ものづくり産業の総合的かつ計画的な振興を図るため
計 画 構 成 等	(1) 計画目標 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡 (2) 重点項目 ①緑地率の緩和 ②大手製造企業の傘下企業に対する支援の検討 ③中小製造事業者等を取り巻く規制事項の洗い出しと緩和の検討 ④本市の誇るべき中小製造事業者等の表彰 ⑤産業振興プラットフォームの考え方に基づく中小製造事業者支援 ⑥国や県等の補助制度の情報提供と活用モデルの提案 ⑦展示販売会等の開催による販路拡大に向けた支援 ⑧ものづくり関連の民間活動団体への支援 (3) 方 針 方針1 … 企業の誘致と留置の推進

	方針2 … 新市場・販路開拓に対する支援 方針3 … 新製品・技術開発等に対する支援 方針4 … 中小企業の経営基盤・競争力の強化 方針5 … 次代を担う多様な人材の育成 (4) 事業 各事業の成果目標及び事業実績一覧表のとおり
--	---

基本計画の実施主体については、計画目標の達成に向けた事業を実施する担当課として、経済局商工部3課（産業振興課、産業政策課、商業労政課）が基本計画の推進に取り組んでいます。

事業担当課では、方針や施策を踏まえるとともに、計画目標を達成するための成果目標のもとで、効率的かつ効果的な事業運営に努め、同時に進捗管理を図りながら事業を推進してきたところであります。

### 3 実施状況等

基本計画については、前項のとおり、計画目標の達成に向けて、体系化が図られたものであるため、その実施状況にあたっては、一事業の進捗状況を注視するだけでなく、計画目標を実現させるために掲げた方針の進捗状況を捉えることで、計画全般を総合的に把握する必要があります。そのため、今回の報告では、図1のとおり、計画目標の大項目である8つの重点項目と5つの方針を基本的な枠組みと捉えるとともに、5つの方針の中に位置付けられた各事業（一定の事業内に掲載されたポイントを含めると全42項目）に関する進捗状況をもとに、方針毎の実施状況を把握しています。その後、それぞれの方針に関する進捗状況を総合的に判断した結果をもとに、基本計画の実施状況を包括的に評価しています。

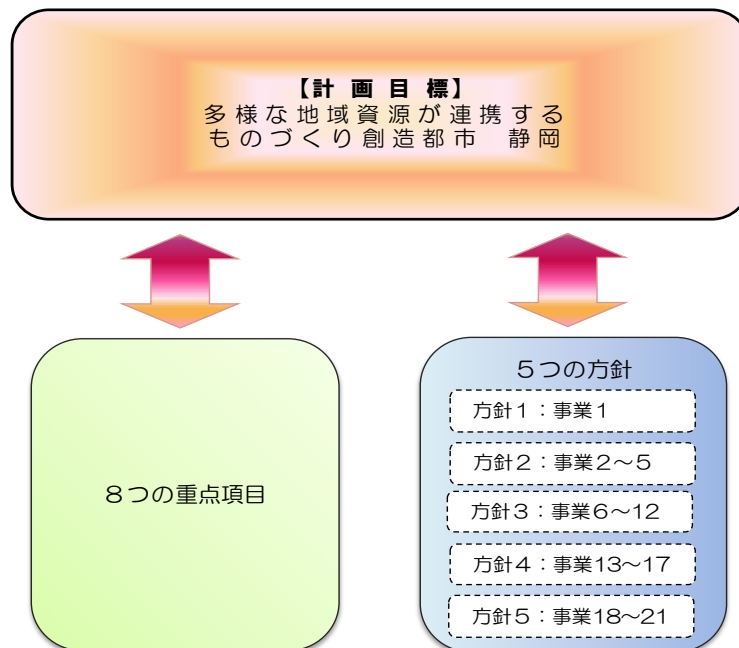


図1 基本計画体系図

このようなことから、次項以下では、各重点項目及び方針の進捗状況を把握するために、表1のとおり、各種事業の実施結果について、AからCまでの3段階による区分に加え、数値目標を設けていない事業の4つに振り分けています。

なお、事業等の成果目標に関しては、単年度毎のものと計画期間の4年をベースとするものの2つに大別しています。そのため、4年間のベースに目標を設定した事業につきましては、4年間の実績を基に事業評価をしています。

事業評価	成果目標に対する事業の進捗状況等
A	成果目標以上の進捗状況を達成した事業
B	成果目標をほぼ達成した事業
C	成果目標を下回った事業
※	数値目標を設けていない事業
(留意事項)	1) 成果目標の捉え方 4年の計画期間をベースに目標設定した事業については、4年間の実績を基に進捗状況について評価を実施。 2) 施策の付記 参考まで当該方針を構成する施策を同表の冒頭に記載。

表1 成果目標に対する各種事業の進捗状況等

### (1) 8つの重点項目の実施状況

重点項目においては、8項目のうち、重点項目6を除く7項目において第2次基本計画から新たに登載された項目であります。表2のとおり、数値目標を設けている3つの重点項目において、すべて成果目標以上または成果目標達成の進捗状況にあることから、各重点項目において、順調な事業展開のもとで推移していたと捉えております。

また、重点項目1の緑地率の緩和においては、数値目標は設けていないものの、工場立地法の規定に基づく最大限の緑地率緩和をするため、他都市の調査、市内特定工場に対するアンケート調査を実施し、その調査結果をふまえ平成27年11月に「静岡市工場立地法第4条の2第2項の規定に基づく準則を定める条例」を制定いたしました。基本計画の初年度でありながら、早々に目標を達成することができたため、事業評価Aとして分類しております。

さらに、重点項目5の産業振興プラットフォームの考え方に基づく中小製造事業者支援については、プロジェクト支援数3件の成果目標でありながら、実績10件と、大幅に目標を上回ることができました。プロジェクト支援の内容としては、市内中小企業の求めるニーズに対し、本市が産・学・金への橋渡しの役割を担うことで、プラットフォーム機能を果たし、当該企業の新たな事業展開に繋がった事例を指しています。今後も、積極的な企業訪問等によるシーズ・ニーズの発掘に取り組み、産・官・学・金の連携による支援を実施していきます。

その他、数値目標を設定していない4事業においても、各種関連団体との連携を活かした新

たな取組に向け順調に支援等を実施できたと捉えておりますが、次年度以降はより具体的な成果が表れるよう、事業内容の改善を図ってまいります。

事業評価	重点項目
A	重点項目① 緑地率の緩和 重点項目④ 本市の誇るべき中小製造事業者等の表彰 重点項目⑤ 産業振興プラットフォームの考え方に基づく中小製造事業者支援 重点項目⑦ 展示販売会等の開催による販路拡大に向けた支援
B	—
C	—
※	重点項目② 大手製造企業等の傘下企業に対する支援の検討 重点項目③ 中小製造事業者等を取り巻く規制事項の洗い出しと緩和の検討 重点項目⑥ 国や県等の補助制度の情報提供と活用モデルの提案 重点項目⑧ ものづくり関連の民間活動団体への支援

表2 事業実績に基づく8つの重点項目の進捗状況等

## (2) 方針毎の実施状況

### ①方針1 企業の誘致と留置の推進

方針1は、表3のとおり、登載事業は事業1のみであります。成果目標達成の進捗状況にあることから、方針の進捗状況に関しては、比較的順調な事業展開のもとで推移していると捉えております。

年間を通して積極的な企業訪問に取り組むとともに、企業立地を促す各種情報や助成制度の情報提供を実施したことから、新規企業立地の年間目標件数である17件の立地に成功し、進捗率100%を達成しています。また、今後は総合戦略の重点事業である「本社機能移転・拡充」のための取り組みや、静岡県へ申請する「特定業務施設整備計画」の作成支援強化を進めてまいります。

事業評価	方針1 企業の誘致と留置の推進
A	事業1 企業立地の推進
B	—
C	—
※	—

表3 事業実績に基づく方針1の進捗状況等

## ②方針2 新市場・販路開拓に対する支援（異業種交流支援を含む）

方針2については、表4のとおり、数値目標を設定している8事業において、すべて成果目標以上または概ね成果目標達成の進捗状況にあることから、方針の進捗状況に関して、比較的順調な事業展開のもとで推移したと捉えております。

その中でも、事業3-3のしずおか葵プレミアム認証事業において、展示即売会の開催は年10回の目標となっておりますが、平成27年度については18回の開催となり、当事業について目標を2倍近く上回ることができました。今後も、市民に対する認知度向上を図るとともに、本市の魅力を市外・県外へ発信し、認証事業者の販路開拓につながるよりよい施策を検討してまいります。

また、事業2の全国規模等の見本市への出展助成においては、成果目標どおり、全国規模展示会等への出展・開催件数55件を達成することができました。加えて、数値目標以外の成果としては、当該事業はこれまで10月時点で予算がほぼ満額執行となり、年度末に展示会展を検討する企業が助成制度を利用できないという課題を受け、平成28年度から申請受付期間を2期に分けて運用を行うための検討を実施し、前述の課題解決を図るなど、企業ニーズに沿った制度設計に取り組んだ点が挙げられると考えております。

また、方針2の事業のうち、第2次基本計画より新たに登載された事業として、事業5の地場産品の販路開拓と販売促進があります。この事業では、静岡市ものづくり産業振興審議会の構成員のうち、任意の委員によって構成されている伝統工芸創造部会の提言等に基づき、地場産品の販路開拓と販売促進を検討し、地場産業関連事業者の収益性の向上に努めているところです。事業5に登載されている5つのポイントにおいては、いずれも成果目標以上または概ね成果目標達成の進捗状況にあります。

数値目標を設けていない事業に関しても、海外の展示会への出展、駿府楽市のWebページの改良等を実施しました。今後もより一層、地場産業関連事業者がメリットに感じる事業展開となるよう、取り組んでまいります。

このような進捗状況にある方針2については、ほぼすべての事業において、目標以上の順調な進捗が確認されることから、新市場・販路開拓支援に関する方針に沿って、事業展開できたと考えております。

事業評価	方針2 新市場・販路開拓に対する支援（異業種交流支援を含む）
A	事業2 全国規模等の見本市への出展助成 事業3 首都圏におけるプロモーションの強化 （事業3-1 特産品東京展示会事業） （事業3-2 ホビーのまち静岡推進事業） （事業3-3 しずおか葵プレミアム認証事業） 事業4 中小企業の新規市場開拓・新分野進出への支援 事業5 地場産品の販路開拓と販売推進 （事業5-1 伝統工芸品等の展示販売会の充実化） （事業5-4 問屋的機能の再興に向けた検討） （事業5-5 地場産品販売拠点の充実化）
B	—
C	—
※	事業5 地場産品の販路開拓と販売推進 （事業5-2 海外における地場産品の販路開拓） （事業5-3 インターネットの活用による地場産品の販売促進）

表4 事業実績に基づく方針2の進捗状況等

### ③方針3 新製品・技術開発等に対する支援

方針3については、表5のとおり、8事業のうち7事業において数値目標を設定しており、そのすべての事業において成果目標以上または概ね成果目標達成の進捗状況にあることから、方針の進捗状況に関して、比較的順調な事業展開のもとで推移していたと捉えております。

特に、事業10のアーティストとのコラボレーション支援推進事業については、目標である開発点数20点に対して、実績が30件であり、1.5倍の成果をあげることができました。その要因としては、昨年度よりこの事業に参加しているデザイナー及び事業者のチームが、今年度も継続して参加したことにより、効率的に新商品開発に取り組むことができたからだと考えられます。また、開発した作品については、「商品」として流通化をより高めるため、首都圏での見本市出展、小売店出展、小規模展示会等により、市場への展開を多面化する施策を実施しました。今後も、効率的な開発とともに、販路拡大支援も継続して取り組んでまいります。

事業9-2の新商品・特許事業は、市内中小製造事業者の取り組む新商品等開発及び産業財産権出願等について補助金を交付する制度であります。当該制度については、静岡市ものづくり産業振興審議会において、産業振興関係団体所属の委員より「市内の中小製造事業者は、この制度を非常に頼りにしている」との声が聞かれました。実績についても、成果目標25件のところ、35件と、大幅に上回る助成件数となっております。今後も、本事業の周知を図り、より効果的に支援ができる施策となるよう検討していきます。

また、第2次基本計画より新たに登載された、事業12の職人に対する商品開発手法等の教育については、前述の伝統工芸創造部会の提言に基づき、伝統工芸職人の新たな商品づくりに向けた活動を支援するため、顧客ニーズを考慮した商品開発手法等を学習する機会を提供する取り組みであります。平成27年度は、デザイナー団体に所属している地元の複数デザイナーが優良な商品を持ち寄り、小規模ながらも展示会を開催したことで、地元職人に啓発の場を提供することができたと捉えております。普段他の分野の商品等に触れる機会が多くない地元職人にとって、このような優良な商品を実見することは非常に重要な機会であります。今後は、さらに商品開発等の指導会、講師招聘による具体的な開発手法やマーケティング手法、販路開拓手法等を学ぶ場となるよう、ステップアップを図っていきます。

これらの進捗状況を受けた方針3の進捗状況については、今後、更なる進展が望まれる事業も見受けられますが、多くの事業においては、成果目標以上の進捗が確認されることから、新製品・技術開発等支援に関する方針に沿って、事業の進捗が図られたと捉えております。

事業評価	方針3 新製品・技術開発等に対する支援
A	事業7 中小企業技術開発支援事業 事業9 専門家の指導による商品企画・開発支援 (事業9-1 商品企画・開発支援プロジェクト事業) (事業9-2 新商品・特許事業) 事業10 アーティストとのコラボレーション支援推進 (ニューウェーブしずおか創造事業) 事業11 地域課題に係る産学共同研究への支援 事業12 職人に対する商品開発手法等の教育
B	事業8 若手グループの商品開発支援(ものづくり相談・支援)
C	—
※	事業6 新産業開発振興機構の活用に関する検討

表5 事業実績に基づく方針3の進捗状況等

#### ④方針4 中小企業の経営基盤・競争力の強化

方針4に掲げる事業については、表6のとおり、10事業のうち、数値目標が設けられているものが2事業、設けられていないものが8事業と、他の方針と比較して、数値目標が設けられていない事業が多く登載されております。

数値目標を掲げる事業のうち、事業16-3のものづくり先進都市等に関する調査研究については、年間1都市への視察が目標として設定されており、目標どおり京都市への視察を実施いたしました。京都市は、市内の産業を体系的に捉え、様々な産業が相互にきめ細かく支え合うためのビジョン等を策定するとともに、工業統計等により状況把握に努め、産業振興策に活かしている都市であります。当該調査結果について、本市の施策への反映に向けた検

討を進めるとともに、今後も本市の事業展開に役立てていくため、先進都市への視察調査を実施していきます。

同じく数値目標を掲げている事業 17-1 の地場産品の市場及び商品分析等に関する調査についても、首都圏等における調査実施回数2回の目標に対し、実績2回と、目標を達成することができました。当該事業の調査内容としては、首都圏での消費者ニーズを把握するため、全国の地場産品が集う2k540（東京都台東区）にて聞き取りによるアンケート調査を実施しました。今後も継続して調査を実施するとともに、調査対象人数の増加、調査内容の多様化を図り、より効果的な市場調査の実施に向け、改善に努めてまいります。

これらのことから、成果目標を掲げる2事業については、いずれも成果目標を達成しており、中小企業の経営基盤・競争力強化に関する方針に沿って、順調な事業展開のもとで推移していたと捉えております。

一方、数値目標が設けられていない各事業においても、国や県等の補助制度に関する情報についての情報収集、企業OB技術者の活用事業に向けた事例調査、他市・他団体へのヒアリングの実施のほか、県内の大学と連携した本市のものづくり産業の将来予測等に関する基礎資料の集積等を実施することにより、事業の進捗が図られていたと捉えております。

事業評価	方針4 中小企業の経営基盤・競争力の強化
A	事業16 中小企業の支援施策等に関する調査事業 (事業16-3 ものづくり先進都市等に関する調査研究) 事業17 地場産品に関する調査事業 (事業17-1 地場産品の市場及び商品分析等に関する調査)
B	—
C	—
※	事業13 国、県等に関する補助制度等の情報提供支援 事業14 企業OB技術者等の活用事業 事業15 製造業部会等との連携推進 事業16 中小企業の支援施策等に関する調査事業 (事業16-1 産業構造の将来動向等に関する予測モデル構築の検討) (事業16-2 地域間競争に臨む戦略的方策の検討) (事業16-4 エネルギー需給状況等に関する調査研究) 事業17 地場産品に関する調査事業 (事業17-2 伝統工芸品に関する代替素材の調査研究) (事業17-3 職人及び業界への支援の在り方に関する調査研究)

表6 事業実績に基づく方針4の進捗状況等



## ⑤方針5 次代を担う多様な人材の育成

方針5では、表7のとおり、成果目標を下回ったものが1事業ある一方で、それ以外の事業では、順調に事業展開が図られ、成果目標を達成した状況にあります。

事業19-2の職人育成事業（クラフトマンサポート事業）について、短期支援者数は成果目標に届きませんでした。長期支援者数は目標を上回る成果を達成し、独立支援補助金交付者数においても目標を達成することができました。短期支援者数が目標に届かなかった要因としては、平成26年度より継続する長期支援者（長期支援者への支援期間は2か年）に加え、同じく平成26年度の短期支援者を平成27年度に継続して長期支援として受け入れたことから、予算の都合上、新たな短期支援者を受け入れることができなかつたという背景があります。このことから、今後は予算の拡充を図り、より多くの希望者を支援できる体制を整えていきたいと考えております。

また、事業20の高校生のインターンシップ事業については、成果目標年間50人に対し136人と、大幅に上回ることができました。今後も、引き続きインターンシップコーディネート及びインターンシップ受入可能事業所の新規開拓を行い、実施期間や職種を選択できるようにするなど、市内の高校生にとって、より充実した内容となるよう、取り組んでまいります。

一方、事業21のものづくり体験・学習機会の提供について、成果目標が駿府匠宿体験学習利用児童数3,600人であったところ、実績が2,691人と、目標を下回る結果となりました。目標に達しなかつた要因としては、当該事業の実施に際して、小学校の年間行事や予算等の影響が大きく、体験学習を利用する学校側の都合で、年度により利用児童数が大きく変動するためであると考えられます。今後の改善策としては、4月に開催される校長会でのPR、申込みのない小学校の4年生の担当者に対して、再度通知するほか、小学校4年生に限定せず、中学生・高校生等も対象とするような職場体験を実施するなど、多角的な視点から事業展開を検討してまいります。

その他、成果目標を設けていない事業についても、理工系大学誘致に係る先進地視察、若手職人の大学進学支援に係る若手職人のニーズ及び大学への可能性調査等を実施しました。

これらのことに基づく方針5の進捗状況については、成果目標を下回った事業が見られるものの、成果目標以上の実績を有する事業が多く確認されるため、ものづくり産業の人材育成という方針のもとで、事業の進捗が図られたと捉えております。

事業評価	方針5 次代を担う多様な人材の育成
A	事業19 職人の育成事業（市と伝統工芸業界の連携事業） （事業19-1 若手後継者の技術習得支援（伝統工芸技術保存講習会の開催）） 事業20 高校生のインターンシップ事業
B	事業19 職人の育成事業（市と伝統工芸業界の連携事業） （事業19-2 職人育成事業（クラフトマンサポート事業））
C	事業21 ものづくり体験・学習機会の提供 （未達成理由）駿府匠宿の体験学習利用児童数は小学校側の都合により年度によって大きく変動するため。 （改善方法）担当者あての再通知、体験学習対象者の拡大
※	事業18 理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討 事業19 職人の育成事業（市と伝統工芸業界の連携事業） （事業19-3 若手職人の大学進学支援の検討）

表7 事業実績に基づく方針5の進捗状況等

### (3) 基本計画実施状況の総括

基本計画の実施状況に関しては、計画目標を支える重要な方針レベルにおいて、表8のとおり、重点項目及び5つの方針で概ね進捗が図られているとともに、事業レベルの進捗状況からも、成果目標以上の達成を示すA（23事業）及び成果目標をほぼ達成したことを示すB（2事業）に該当するものが、全42事業の59.5%を占める結果となっています。その中でも、成果目標を設けた事業だけを見た場合には、目標達成が88.5%を占め、基本計画全体の進捗状況については成果目標を概ね達成できたと捉えることができます。

方針及び事業別の進捗評価						評価区分別事業割合			
方針区分	評価区分	該当事業数	方針別(%)	3区分(注1)	方針別進捗評価	評価区分	該当事業数	事業別(%)	3区分(注2)
重点項目	A	4	50.0	50.0	○	A	23	54.8	59.5
	B	0	—						
	C	0	—						
	※	4	50.0						
	小計	8							
方針1	A	1	100.0	100.0	◎	B	2	4.7	2.4
	B	0	—						
	C	0	—						
	※	0	—						
	小計	1							
方針2	A	8	80.0	80.0	○	C	1	2.4	38.1
	B	0	—						
	C	0	—						
	※	2	20.0						
	小計	10							
方針3	A	6	75.0	87.5	○	※	16	38.1	—
	B	1	12.5						
	C	0	—						
	※	1	12.5						
	小計	8							
方針4	A	2	20.0	20.0	○	—	42	—	—
	B	—	—						
	C	—	—						
	※	8	80.0						
	小計	10							
方針5	A	2	40.0	60.0	○	—	—	—	—
	B	1	20.0						
	C	1	20.0						
	※	1	20.0						
	小計	5							
事業数計		42	—		—	—	42	—	—
各方針の進捗状況に対する総合的な評価		◎：十分に進捗が図られている      ○：概ね進捗が図られている △：進捗が図られていない          ×：全く進捗が図られていない							

注1) 各方針の事業に関して、順調に進捗が図られている事業とその他により事業を区分しています。

注2) 3区分による表記は、全42事業を成果目標以上とその他により事業を区分しています。

注3) 方針別の割合について、必ずしも100%にならない項目もあります。

表8 方針及び事業別の進捗評価・評価区分別事業割合

また、数値目標を設けていない事業においても、事業ごとに進捗程度は異なるものの、順調に事業を進めていることから、概ね進捗が図られていると評価しております。

これらのことから、基本計画全般にあつては、図2のとおり、計画目標の「多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡」に向けて、各種の事業成果を創出しながら、順調かつ着実に実施されている状況にあります。今後も、個々の事業が静岡市のものづくり産業の振興に向けて、より効果的な事業となるよう検討を進めてまいります。

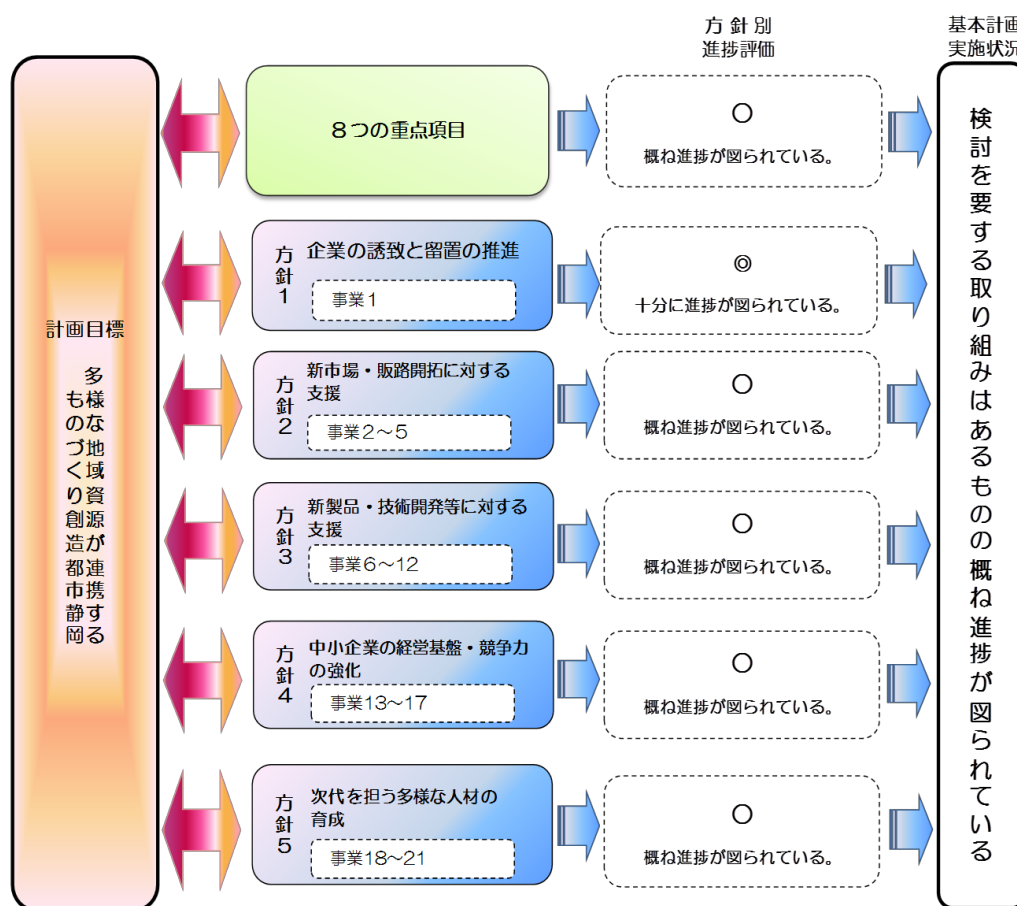


図2 基本計画の方針別進捗評価に基づく実施状況